

巻 頭 言

秋篠宮同妃両殿下が「いも類ブース」をご視察

—第48回農林水産祭「実りのフェスティバル」—

(財)いも類振興会

理事長 狩谷 昭男

はじめに

平成21年度の第48回農林水産祭「実りのフェスティバル」は、2009年11月6日と7日の両日、東京国際展示場（「東京ビッグサイト」）で開催された。これに先立ち6日の午前、秋篠宮文仁殿下、秋篠宮妃紀子さまは、実りのフェスティバル会場をご視察された。

（財）いも類振興会では、実りのフェスティバルへ平成14年度からいも類の出展を続けてきたが、今回、両殿下に「いも類振興会ブース」をご視察いただく栄誉に浴することができた。

以下、いも類振興会ブースにおけるご視察の概要を紹介したい。

最初に、いも類振興会の業務については、サツマイモ、ジャガイモを対象に生産振興、流通・加工の改善、消費拡大の啓発に関する事業を実施していることを申し上げた。これに対して「サトイモ、ヤマイモなどは業務対象になりませんか。」とのご質問があり、「それらを排除していないが、サトイモはこれまでも野菜として振興されていることもあって、事業活動の対象にしておりません。」とお答えした。

なお、秋篠宮殿下は東京農業大学の客員教授であり、野鶏の研究者であるほか、ヤマイモなど熱帯農作物にも造詣の深い方だとお聞きしている。



サツマイモの展示品

サツマイモ関係の展示品としては、新品種、紫サツマイモを素材にした機能性食品、焼きいも、いもケンピ、サツマイモチップ、いも焼酎をご紹介します。

まず、最近人気の高い安納紅、甘熟密こがね、種子島ゴールドを使用した焼きいもを、香ばしい匂いが漂う中でご覧いただいた。近年、焼きいもはスーパーなどでの電気焼きいも機の普及もあって、若者の関心も高く消費が順調に伸びていることや、嗜好性も“ほくほく系”から“ねっとり系”へと変化しつつある状況をご説明した。

次に、平成7年度にアヤマラサキが育成された以降、紫サツマイモは肝機能向上、血圧上昇抑制、血液流動性改善などの効果を持つ機能性食品として注目され、商品化が進んでいる状況をご説明した。展示した製品は、清涼飲料、漬物、菓子類の着色に利用されている「ムラサキイモ色素」、パン、クッキー、麺類に利用されている「アヤマラサキパウダー」、「ムラサキイモエキスタブレット」の3品である。また、水にムラサキイモ色素を点滴し、紫や赤に変化する様子を興味深く観察いただいた。

新品種のコーナーでは、平成21年度で新たに育成された一口サイズの「ひめあやか」（青果用）、「タマアカネ」（醸造用）、「ほしキラリ」（干しいも用）についてご説明したほか、べにはるか、パープルスイートロード、クイックスイート、べにまさり、アケムラサキ、ムラサキマサリの9品種をご覧いただく。品種に関して殿下は「太白、金時という品種もありますね。」と往年の人気品種の現況をお尋ねになった。これに對

して、「太白は、数年前から埼玉県秩父地方で地域特産物として、復活の兆しがみられます。また、紅赤の“金時”の栽培面積は少なくなったが、高系14号の派生系統である“なると金時”、“五郎島金時”などの人気銘柄もあります。」と申し上げた。

また、塊根が総状に肥大し普通のサツマイモの形状とやや異なった「タマアカネ」と、ジュース用の巨大な「農林ジェイレット」の2品種も展示していた。これを驚いた様子でご覧になり、「これもサツマイモですか?。」、「サツマイモは、1個の最大重量はどれくらいになりますか。」とお尋ねになった。「変わった形をしています、サツマイモです。1個重で最大10kg程度まで大きくなります。」とお答えした。

ジャガイモの展示品

新品種では、青果用のインカのひとみ、スノーマーチ、アイユタカ、キタムラサキ、普賢丸をはじめ、加工用では、はるか、さやあかね、シャドークイーン、ノーザンルビー、こがね丸、らんらんチップの11品種を展示した。このほかフランスで育成されたシンシア、サッシー、シェリーもご覧いただいた。両殿下は、特に栗風味の「インカのひとみ」等に関心を寄せられた。

次に、スナックのポテトチップをはじめ、北海道産有色ジャガイモを使用したスティックタイプの“じゃが彩いもささめ”、キューブタイプの“じゃが彩いもさざれ”、“じゃがバター”をご紹介します。殿下からは、ポテトチップとスティックタイプのスナックを指し示されながら、「英国では日本でいうポテトチップスはクリスプス (Crisps)

といい、スティックタイプのものはチップスといいます。何故、日本ではポテトチップスというのですか?。」とご質問された。ポテトチップ製造の菊水堂の岩井さんから「米国では英国でいうクリスプスをポテトチップスと称しております。日本ではアメリカからポテトチップスが入り広まったためと考えられます。」という趣旨のご説明をした。

余談ではあるが、ポテトチップはフランスで生まれ、1870年頃アメリカに渡り、アメリカで育ったといわれている。日本におけるポテトチップ普及の歴史は、第2次世界大戦後のアメリカ進駐軍が導入したことに始まる。一般消費者へ本格的に普及が始まったのは、更に遅れて昭和40年代後半からである。

最後に、サツマイモとジャガイモを使用した料理、菓子のコーナーにお立ち寄りいただいた。そこでは「カラフルスイートポ

テトグラッセ」、「せん切りジャガイモの包み焼き」などの料理のほか、約10種類の大人も子供も喜ぶ「いも菓子」を展示した。妃殿下の紀子さまには、興味深い様子で質問も交えて熱心にご覧いただいた。

結びに

秋篠宮同妃両殿下には、前述のとおりご熱心に「いも類振興会ブース」をご視察いただくことができ、私どもに大きな喜びと励ましを与えていただいた。今回のご視察によって、今後のいも類振興を図る諸活動を進めるうえで、いも類の振興に関わる多くの者は、大きな誇りと力添えをいただいたにちがいない。ここに深く感謝申し上げます。

また、平成21年度におけるいも類振興会ブースへの出展に際しては、いも類関係の企業・団体から多大なご協力・支援をいただいた。心よりお礼申し上げます。



いも類振興会ブースの全景



サツマイモの展示品